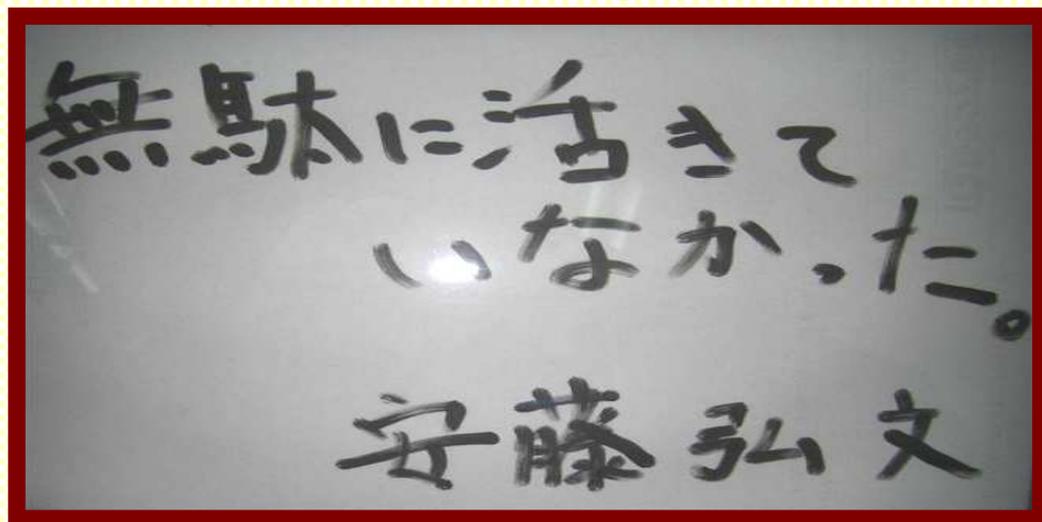


『安藤君と巨人の原監督と自己成長バカ』の関係



これは安藤君がある研修から帰ってきて、すぐにしたためた、熱い思いの「書」です。10年前に1度受講して、途中でリタイアしてしまった、安藤君にとってはリベンジの意味合いの強い研修でした。

今回は見事にやり遂げ、10年前の自分とは一味も二味も違っている、自己成長した自分を感じることができたらしく、決してこの10年は無駄ではなかったという思いが、筆を走らせました。

『無駄に生きていなかった！』このように今までの人生を受け入れ、全肯定出来ると、エネルギーがどこからともなく湧き出て、自分の内部を満たし、また新たな挑戦を試してみたくなくなる。最高ですね！

安藤君は今年何かをやってくれそうです！ 乞うご期待！！

内部が満ちている人といえば、先日、巨人の原監督がTVの『おもいっきりDON！』に出ていて、アレ？っと一瞬思いました。何をアレ？っと思ったかという、声が半オクターブくらい高くなっていたのです。

以前の原監督は誠実で、『愛』とか『ポジティブ』とかを真っ直ぐに熱く語る、松岡修三さんタイプだ感じていたのですが、その日感じた原監督は、肩の力が抜けてユーモアのセンスの光る自由人でありながら、今ここに意識のある勝負師の雰囲気も持ち合わせているという感じでした。

いったい、原監督に何があったのか？それは言わずと知れたWBCでの優勝監督に輝いたこと、日本一になったこと、そして国際野球連盟から2009年度の世界最優秀監督に選出されたことだと思います。

ではなぜ、数々の実績によって自分の内部が満たされると、声が半オクターブ上がるのか？

それは自分の中の何かが開放されるから。

では原監督の中の何が開放されたのか？

？
？
？

それは多分、原監督の中にずっと存在していた『長嶋茂雄コンプレックス』だと思います。

憧れという形で、まぶしく絶対的な存在であった『長嶋茂雄』が、意識から消え、その代わり、自分自身が長嶋茂雄に同化してしまっている。そんな感じの半オクターブでした。

長島JAPAN、王JAPAN、星野JAPANと続いた後に、侍JAPANとした原監督の心理。自分を受け入れるのではなく、自分を乗り越えて何者かになろうとする原監督のスタイル。これも最高です！

『自分とは、受け入れては溢れ、乗り越えては溢れる存在。』どちらにしても最高です！

私は、自己成長バカといわれておりますが、みんなと一緒に『心ある(自己成長の)道』を歩んでいきたいと思えます。

感謝！ 羽原篤史

